

ふるさとへの想い

大田区 江平久子（四辻出身）

結婚を期に上越から東京に来て三十年余り、嫁ぎ先の両親も高田出身、義父は私と同じ四辻、義母は脇野田、東京に親戚のない私には、同郷は心強いものでした。日々の会話には方言も混じり、食事も味付け食材と、ふるさとの物が多く出て来ます。しかし、義父は十五年前、義母は八年前に他界してしまいました。

その後Jネットの会員になり、東京にいながら上越の情報が入ってきます。今年、農業体験実施の記事を見て、昔を思い出します。

田植の時、「え」といって五軒位の家と組んで四日から五日で順番に田植をするのです。私の中学生の時は、田植休みが有って、「え」をしている家々に、手伝いに行つたものです。又人数が揃わない時には、中学校の友達に頼んで来てもらった時もあります。田植には、格子という

機具を二枚前後に使い、格子の中で横一列に女の人が五人並び、赤い印の所に苗を植えながら下がって行く、男の人が植え終った苗を倒さないように前の格子を後に合せて進んで行くのです。中腰の作業は腰が痛くなるし、硬い田んぼは反ら指になるし、軟らかいと足が抜けにくく時には脚絆の上から蛭にかまれる。そんなおもいをしながら一枚の田んぼが終ると苗が碁盤の目の様になる。それが、あちらこちらに出来上がって緑がきれいです。又小昼に出してもらおうおにぎりや、まぜご飯、煮物などいたたくのも楽しみです。田植は、部落一斉に始めるので田んぼは、老若男女の人人人、まるでお祭りのように賑やかでした。

機械化が進んで来た今、四辻の田んぼは、今年から一町と大きくなり、手作業もくーんと減り体も楽になった事でしょう。

う。
昔ながらの農業しか知らない私ですが、機会があれば農業体験に参加したいと思っています。

